

第43回札幌くらぶサロン

秋の夜 フリユーゲルホルンの調べを楽しむ

10月9日(木)、豊平館で第43回札幌くらぶサロンが開催されました。

札幌くらぶサロンでは、初めての平日開催でしたが、夕方からの雨にもかかわらず、多数の来場がありました。

今回のサロンコンサートは、札幌トランペット奏者の小林昌平さんとピアニストの城真由(しろまゆ)さんをお迎えしました。

コンサートの前に9月18日に逝去された札幌くらぶの上田

文雄会長を偲んで、上田会長愛用のトランペットで小林さんが「追悼演奏」を行いました。会場には小さな献花台が設けられ、遺影とお花が置かれて照明を暗くした会場にトランペットの音が響きました。

その後、サロンコンサートは予定通り行われました。1曲目はG・F・ヘンデルの組曲「二長調HWV341」が演奏されました。小林さんによると、この演奏に使用されたのはピッコロトランペットで、この日のコンサートでトランペットが使用されるのは、この曲だけだとの紹介がありました。

2曲目はフェルスタアのホルン協奏曲で、この曲以降は小林さんが最近購入したというフリユーゲルホルンでの演奏になりました。このフリユーゲルホルンはベルの直径

が19.5cmもある大きな楽器でした。その楽器に合うケースが見つからないとか、トランペッター奏者ナカリヤコフのモデルであるが、吹きにくい上に、音程が悪いなどユーモラスな話の後、演奏が始まりました。リズムカ

ルな曲想が始まり、途中ピアノの悲しい調べとフリユーゲルホルンが調和し、最後もリズムカナルな演奏に戻る美しい協奏曲でした。

3曲目の前に、小林さんから「この後の交流パーティーでは、各テーブルを回りたいので」と言って自己紹介がありました。ご出身が山口県の下松(くだまつ)市であることなどが話されましたが、その途中で、フリユーゲルホルンのバルブにオイルを注入したいということになり、お話は一時中断されました。その間、ピアノの城さんの自己紹介が行われました。城(旧姓・水口)さんは結婚して姓が変わり、珍しい方の姓で活動したかったため、城(しろ)という姓を選んだことや、バレエが趣味であるとのこと、小林さんの楽器調整の時間をつないでくださいました。

その後、グノーの「6つの旋律的作品」より、第1番、第2番、第3番が演奏されました。1番はピアノの演奏にフリユーゲルホルンが重なる出だしが印象的な曲でした。2番はフリユーゲルホルンが始まり、3番は再びピアノから始まり、それにフリユーゲルホルンの高音が重なる個性豊かな曲が続きました。

4曲目の前には、小林さんから「3番ピストンの調子が悪い」との話があり、ここでもフリユーゲルホルンの調整をしながら、4曲目のシューマンの「アダージョとアレグロOp.70」は、本来ホルンのために作曲された曲であるが、いろんな楽器で演奏されていること、ナカリヤコフも演奏していることなどが紹介されました。静かな演奏から徐々にテンポが速くなる曲で、魅了されました。

その後、グノーの「6つの旋律的作品」より、第1番、第2番、第3番が演奏されました。1番はピアノの演奏にフリユーゲルホルンが重なる出だしが印象的な曲でした。2番はフリユーゲルホルンが始まり、3番は再びピアノから始まり、それにフリユーゲルホルンの高音が重なる個性豊かな曲が続きました。

4曲目の前には、小林さんから「3番ピストンの調子が悪い」との話があり、ここでもフリユーゲルホルンの調整をしながら、4曲目のシューマンの「アダージョとアレグロOp.70」は、本来ホルンのために作曲された曲であるが、いろんな楽器で演奏されていること、ナカリヤコフも演奏していることなどが紹介されました。静かな演奏から徐々にテンポが速くなる曲で、魅了されました。



小林昌平さん



献奏で用いられた上田会長愛用のトランペット

アンコールの前には、小林さんから「攻めた楽曲を選びました。うまくできたと思います」とのお話がありました。アンコールは先ほどのグノーの「6つの旋律的作品」より、第4番が演奏されました。フリユーゲルホルンの低音の魅力が十分出た楽曲でした。

第2部は楽員さんを交えた交流パーティーです。

上田会長を偲んで献杯が行われ、小林さんは約束どおり、各テーブルを回ってくださり、参加者の皆さんと歓談して楽しい交流パーティーとなりました。

今回の第44回札幌くらぶサロンは、来年1月12日(月・祝)にヴィオラの原香奈恵さんをお迎えして開催されます。真冬の開催ですが、今から楽しみです。

会員/岸田貴志



小林昌平さんとピアニストの城真由さん

12月〜3月 定期演奏会 Hitaru 定期演奏会 名曲コンサート

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三 (札幌くらぶ顧問)

hitaru シリーズ

第23回定期演奏会

12月23日(火) 19:00

指揮

広上淳一

ヴァイオリン 米元響子

尾高惇忠が亡くなった1ヶ月後の2021年3月に札幌Hitaru 定期で実弟尾高忠明の指揮、宮田大の独奏によるチェロ

■尾高惇忠

ヴァイオリン協奏曲

協奏曲が世界初演された。このコンサートは多くの札幌くらぶ会員の皆様も感動を共有されたことと思うが、ヴァイオリン協奏曲はその年の6月に京都市交響楽団によって初演されている。惇忠の高弟だった広上淳一の指揮、米元響子の独奏という初演と同じ組み合わせで今回聴けることは大変意義深い。YAMAHIAの楽譜紹介には「尾高惇忠が追求し続けた美しい音の構築が印象的な協



広上淳一 © Masaaki Tomitori

米元響子

© Hirotada Onaka



奏曲」と明記されているが、作者の集大成とも言える美と研ぎ澄まされた音響を体現できるところが待ち遠しい。

■ラフマニノフ

交響曲第2番

交響曲第1番が不評に終わった中、ラフマニノフは神経衰弱を克服しながら、ピアノ協奏曲第2番でグリーンカ賞を勝ち取り成功を収める。自信を持ちながらつくり上げたこの曲は、彼の

3つの交響曲中、もっとも広く親しまれるようになった名曲だ。全体的にラフマニノフ特有の饒舌さがあり、構成的には息の長い起伏のうちに情緒的な曲の運びを見せる独特の構成を示し、叙情的にかつおおらかに曲を動かすと言う点で、彼のピアノ協奏曲第2番との共通性を感じさせる。第3楽章のクラリネットのメランコリーな音色を聴くと涙腺がゆるんでしまいそうになるのは、筆者だけではないだろう。

■武満徹

ア・ウェイ・

ア・ローンII

武満は生前、「札幌は私の音楽と最も調和しているオーケストラだ」と語り、事実黒澤監督の映画『乱』でもそのサウンドトラックに札幌を起用しているほど。この曲は、元々は弦楽四重奏曲から弦楽合奏に作曲家自身が編曲したもので1982年に札幌市民会館で開催された「武満徹世界初演曲 札幌特別演奏会」で演奏されCD化もされている。作曲家の美学である「透明な音響」間「記憶の断片」を徹底して具現化した作品で、聴き手に深い内省や静謐な時間を体験させてくれることだろう。

第674回定期演奏会
1月31日(土) 17:00
2月1日(日) 13:00
指揮 エリアス・グランディ
バリトン ベンヤミン・アップル



エリアス・グランディ © Y.Fujii

ベンヤミン・アップル

© David Ruano



■マラー

さすらう若人の歌

マラーは若いころから文学に傾倒し、二十歳の頃には自作の詩による「五つの歌曲」を書いている。この曲は、彼がカッセル王立劇場の副指揮者だった頃、歌劇場ソプラノ歌手ヨハンナ・リヒターに対する失恋体験を反映したもので、自分の思いを率直に表現した最初の作品である。全4曲のうち3曲はマラーの詩によるもので、偉大な交響曲と共に、美しいメロディメーカーとして比類なき歌曲作家であったこともわかる。1曲目の「さすらう若人の歌」

は恋焦がれた人の結婚式の日、若者の悲しみが切々と歌われ、3曲目の「灼熱した刃」は恋人を忘れることのできない苦しみが一気に噴き出し、若きマーラーの熱情が伝わる。この曲は交響曲第1番とも不即不離の関係にあるのも興味深い。

■R・シュトラウス

交響詩「英雄の生涯」

リストを創始とする交響詩の頂点となるのがこの曲である。それまでにシュトラウスは6曲の交響詩作曲しているが、リストに比べ素材や標題に応じて、それぞれの形式・主題の扱い方に独自性をみせて音楽を作り上げている。この曲の「英雄」とは作曲家自身を指すと言われていたが、彼は具体的には説明していない。音楽の内容から推測するならば、自らの半生を描いたというよりも、作曲家としての理想像を表現しているのかもしれない。シュトラウスは自分の交響詩について「ただ音だけで真実を表現し、言葉ではただ暗示するだけ」と語っているが、この大編成で奏でられる単一章の大曲から聴き手独自の英雄像を創り出すことも一興である。



宮川彬良

© Daisuke

名曲コンサート
2月14日(土) 14:00
指揮とピアノとお話
宮川彬良
新井鷗子
構成

■ヴィヴァルディ

四季より「春」

シヨパン

英雄ポロネーズ 他

作・編曲や指揮、さらには饒舌で楽しいトークでお馴染みの宮川彬良が古今東西の名曲を揃え、「アキラさん流アナリゼ」、バレンタイン・オブ・ペシャル」と題し、身近で興味深い内容でクラシック音楽の魅力に迫る。

ヴィヴァルディがソネット(詩)に基づき、鳥のさえずり、

雷鳴、農民の踊りなど、自然と人間の営みを音楽で描写した「春」や、民族舞曲のリズムにのってシヨパンが独自の诗情、技巧で描く「英雄ポロネーズ」がどんな形で演奏されるのか今から楽しみだ。

第675回定期演奏会
3月7日(土) 17:00
8日(日) 13:00
指揮 尾高忠明
ピアノ 鈴木愛美

■シューマン

ピアノ協奏曲

「私はヴィルトゥオーソのためには協奏曲を書くわけにはいかない。何か別のものを考えね

ば」。シューマンは愛するクララにこう手紙を送っている。こうして「ピアノと管弦楽のための幻想曲」が作曲され、これを第1楽章として、他の2つの楽章が付け加えられピアノ協奏曲は完成する。第1楽章冒頭の力強い和音と下降する旋律は作品全体を統一する動機となり、第2楽章は親密で柔らかな響きがクララへの深い愛情を感じさせる。

そして、第3楽章では舞曲的なリズムが展開し、情熱的かつ明快なフィナーレへと向かっていく。今話題の新鋭鈴木愛美のピアノが、シューマンのロマン性をどう演出するか大注目だ。

■エルガー

交響曲第2番

エルガーは50歳を過ぎてから2つの交響曲(3作目は未完



鈴木愛美 ©井村重人

で補完された第3番がある)を残した。第1番を完成させた時、英国の小説家バジル・メインは「エルガーは管弦楽の分野においてイギリスを第一線に押し上げた最初の作曲家である」と評した。大好評を得た第1番から3年後に完成された第2番は、エルガーのスポンサーでもあった英国王エドワード7世に捧げるために、第1番が発表された直後から構想されている。それ

はエドワード王朝の叙事詩としての性格を強く帯びており、過去に対するノスタルジックな懐旧の情を呼び覚ましてくれる楽想からも感じられる。第1楽章からの雄渾な管弦楽の響きは国王に対する思いそのものなのだろう。しかし、この曲の完成直前に国王は崩御され、国王を追悼するための作品となった。悲しみを秘めた第2楽章が元の設計のなかに編入され、国王を讃えるところ同時に哀悼の念が加えられた。20年以上前に尾高忠明が札幌で、この曲を力強さと柔らかさを対比させながら、より深みを増した弦の響きで聴かせたが、今回もこの作品の豊穡な味わいを堪能させてくれることだろう。

(写真提供 札幌交響楽団)



尾高忠明 ©Martin Richardson

フルート首席奏者 クリス・ウォンさんに聞く

札響で音楽することの喜び

幼稚園から3か国語で

出身は香港です。狭い街にいろいろな国籍の人がたくさんいて、忙しすぎやかなところですよ。母語は広東語ですが、香港では幼稚園から小中高まで授業で広東語、標準中国語、英語の3か国語を勉強します。そのころから言語の勉強は大好きです。

子どものころは運動好きだったので、テニス、野球、水泳、縄跳びなどいろいろやっていました。縄跳びは14人くらいでチームを作って香港の大会に出たこともあります。野球は7歳からアメリカに行くまで8年間続けました。ポジションはキャッチャーでした。

オペラ好きだった母に勧められて、音楽も始めました。まず3

歳からピアノを習いましたが、あまり好きじゃなかったのです。7歳から始めたヴァイオリンは、野球と並行して8年間続けました。小学校には弦楽オーケストラがあったのです。

中学校では吹奏楽部に入りました。香港は日本と違って楽器を1年間ぐらい習ってから吹奏楽部に入ります。最初はトラン

ペットが割り当てられたのですが、同じ歳の親戚の子がトランペットを上手に吹いていて、比べられたりするのが嫌で1年でやめてしまいました。

そのあとで第1希望だったフルートに移ることができました。フルートは、小学校3年生の頃に楽器紹介のような授業で初めて音色を聴いて好きになった

学制度を利用してアメリカの公立高校に行きました。香港で進学するのが嫌で留学したいと思ったのです。香港では大学に入れるのは同年代の20%くらいなので、競争が厳しくて大変です。学校が終わった後も3〜4時間は宿題をしなくてはならず、好きな音楽の練習時間が全然とれませんでした。毎日夜

プロフィール

香港出身。13歳よりフルートを始める。アメリカ・ニューヨーク州のイーストマン音楽院を優秀な成績で卒業の後、コブナー奨学金を得てジュリアード音楽院で修士号を取得。ジェファーソン交響楽団国際若手音楽家コンクール入賞、クーセヴィツキー若手音楽家賞受賞。これまでにロベール・ランジュヴァン、ボニータ・ボイド、ナンシー・スタグニッタの各氏に師事。工藤重典などのマスタークラスを受講。6か月の試用期間を経て2025年9月1日付で札幌交響楽団に入団。

宿題より音楽がやりたい！

15歳の時、1年間の交換留学制度を利用してアメリカの公立高校に行きました。香港で進学するのが嫌で留学したいと思ったのです。香港では大学に入れるのは同年代の20%くらいなので、競争が厳しくて大変です。学校が終わった後も3〜4時間は宿題をしなくてはならず、好きな音楽の練習時間が全然とれませんでした。毎日夜



14歳の時、香港の吹奏楽コンクールにて(写真中央)



15歳、アメリカの高校で。まだヴァイオリンも続けていた

の12時に寝て、朝は4時に起きて宿題をしていました。もし宿題を終わらせていないと学校に残らなくてはならなかったのです。

留学先のアメリカでは、フルートの良い先生に出会うことができました。香港では楽譜を渡されて曲を練習するだけだったのですが、その先生は吹く時の姿勢や基礎練習を一から教えてくれました。改めて、アメリカの音楽高校に入ってフルートを本格的に学びたいと思い、両親の許しを得て再びアメリカに渡りました。

不安な日々

公立高校も音楽高校もアメリカ北部のミシガン州の中でも一番北の方にありました。冬はマイナス20度くらいになり、5月になっても雪が降るようなところ

でしたが、寒いところが大好きなので困りませんでした。その後、ニューヨーク州のイーストマン音楽院で学びました。イーストマンでは、3年に1度しかないフルートのコンペティションで優勝し、リバーマンの協奏曲を演奏する機会を得ることができました。

大学院はニューヨークのジュリアード音楽院に進みました。そのころ、ニューヨーク・フィルのエキストラに呼ばれたことがありました。初めてだったのですがとても緊張して、リハーサルの日が始まる2時間ぐらい前に行ったのですが、会場には誰もいません。アメリカではみんな30分前になっても集まらないのが普通なのです。ざーっと一人で席に座って不安な気持ちのまま待っていたことを覚えていま

に初めて札幌でエキストラ(客演首席奏者)として演奏した

「一次試験に合格し、昨年9月に初めて札幌でエキストラ(客演首席奏者)として演奏した

アンサンブルが楽しい

そのころから日本に住んでみたいなど思っ、日本語の勉強を始めていました。日本でフルートのオーディションがいくつ

2020年5月にジュリアード音楽院を卒業する予定だったのですが、3月にはコロナが拡

イーストマン音楽院でリーダーマンのフルート協奏曲のソロを務めた



本語を勉強するのもそうです

探偵になりたかった

好きなことは「語学」です。日本語を勉強するのもそうです

時、「すごく気が合うな、タイムングとかやりたいことを言わ

曲の譜読みに時間がかかっています

1日に4時間練習するのが理想ですが、仕事がある日は家に帰りが遅くとも6時くらいになっ

音楽生活は

自分も音楽家じゃなかったら探偵になりたかったなと思います

が、いろいろな言語を学習することが大好きなのです。音楽では「POP」が好きでよく聴いて

ぜひ演奏したいと思っ

オーケストラではベートーヴェンの交響曲を演奏するのが大好きです。札幌ではこれまでに

演奏したいと思っ

演奏したいと思っ

6月の定期演奏会のラヴェルの「ダフニスとクロエ」よりパントマイムでのソロは本当に緊張

全く違う。基礎も違うし、先生から言われる曲の音色のコンセプト

フルート奏者では、フランスのマシニュー・デュフォーが好きです。乱暴にならなくてとても

感じました

好きでいっぱい

20年、カーネギーホールにてアメリカを去る前にジュリアード音楽院のオーケストラのメンバーと



一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願

札幌からぶの皆さまにはいつも応援していただき、ほんとに感謝の気持ちでいっぱい

大好きです!

日本も北海道も札幌も、大好きです。景色も食べ物も全部が

私も北海道も札幌も、大好きです。景色も食べ物も全部が好き。文化庁の学校巡回公演で

全国各地がらりがらりの

ライブラリアン人生

ライブラリアンとなった最初のきっかけは、学生の頃先輩から読響のステージアルバイトの手が足りないからやらないかと言われたのが始まりでした。ステージの手伝いを何度かしているうちに、今度はライブラリアンも手伝ってほしいということでもやり始めたら、ライブラリアンの仕事というのは無限と言ってもいいくらい膨大で、ライブラリアンの仕事の出来が演奏のクオリティさえ左右しかねない重要な職務だということを知り、その魅力にひかれました。という

にひかれたというのが本当のところかもしれない。当時新設された新国立劇場に、東京フィルの優秀なライブラリアンの先輩が引き抜かれて空席となったところに運よく採用していただいて、私の本格的なライブラリアン生活がスタートしました。よそに引き抜かれるほど優秀な方の後釜が、私のような経験の少ない若造ということで最初は自分の実力不足が辛かったです。東フィルの皆さんが本当に温かかったのにも救われなんとか5年間必死で食らいついでいるうちに、小澤征爾さんがサイトウキネンフェスティバル、小澤征爾音楽塾、東京ティパル、小澤征爾音楽塾、東京のオペラの森など日本を中心に活動されることになり、専属ラ

イブラリアンを探しているというところでそこに呼んでいただけることになりました。その他、宮崎国際音楽祭や紀尾井シンフォニエッタなどにも声をかけていただけようになりました。

その紀尾井シンフォニエッタで北海道公演があり、指揮は尾高さん。宿泊していた紋別のホテルには大浴場があり、早起きして朝風呂に入っていたら尾高さんもちょうどいらして、その時に当時音楽監督をされていた札響のライブラリアンの状況を交えたいという話を聞き、私の道産子魂に火がついて、では私がやりやすくなったのが札響に来たきっかけです。その翌日には

宮沢事務局長が直接私を訪ねてきて、なるべく早く札幌に来てほしいと言われ、慌てて東京の仕事全てを片付け急ぎ札幌に引っ越してきました。

札幌で仕事を始めてみると楽譜の状況は本当にかなり酷く、これをなんとか改善していくのはかなり大変でしたが、札響くらぶさんからの楽譜支援金という楽譜のために用途を特化した、他のオケでは聞いたことのない素晴らしい寄付を毎年いただいていたのをフル活用して、まずは公演の際に使う楽譜のカバーを増やし、そして毎年多く

の楽譜を購入させていただけたのがかなり改善に効果があったのは間違いのないと思っています。あつという間に17年が経ち、私の後に入団した楽団員も増えて、若い方は当時の酷い状況が想像できないほど現在は改善できたかと思えます。

これが、そのとき自分の力を一番必要としてくださる方へへと渡り歩いてきた人生ですが、また次の所へと出発する

元札響ライブラリアン

中村大志

日本のプロ・オーケストラ ②

前号(110号)に引き続き、日本オーケストラ連盟(公益社団法人)に加盟しているプロのオーケストラを紹介する。

今回は準会員13団体の楽団名と本拠地を掲載する。

準会員

①千葉交響楽団 (千葉市)
②藝大フィルハーモニア
③東京ユニバーサル・フィル
④愛知室内オーケストラ (名古屋)
⑤京都フィルハーモニー室内合奏団 (京都市)

⑥アマビレフィルハーモニー管弦楽団 (茨木市)
⑦ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 (豊中市)
⑧テレマン室内オーケストラ (大阪市)

⑨神戸市室内管弦楽団 (神戸市)
⑩奈良フィルハーモニー管弦楽団 (大和郡山市)
⑪岡山フィルハーモニック管弦楽団 (岡山市)
⑫瀬戸フィルハーモニー交響楽団 (高松市)
⑬長崎OMURA室内合奏団 (大村市)

⑭東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団 (東京都)

⑯東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団 (東京都)

⑰愛知室内オーケストラ (名古屋)

⑱京都フィルハーモニー室内合奏団 (京都市)

⑲長崎OMURA室内合奏団 (大村市)

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

会員/村山英朗

この準会員13団体は創立時期が比較的新しい。その中にあって、藝大フィルハーモニア管弦楽団は、前身の東京音楽学校管弦楽団が活動を始めたのが1898(明治31)年というから、突出して古い歴史を持っていることになる。

藝大フィルは東京藝術大学に所属するプロのオーケストラであるが、このほかにも大学に係るオーケストラがある。ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団は大阪音楽大学のオペラハウスの専属オーケストラであるし、愛知室内オーケストラは愛知県立芸術大学出身の演奏家を中心にして2002年に発足した団体である。

テレマン室内オーケストラは、結成が1963年で長い歴史を持つ団体であるが、テレマン作曲の「マタイ受難曲」と「ヨハネ受難曲」を日本で初演したことでも知られている。

アマビレフィルハーモニー管弦楽団は2015年に設立された、日本で唯一の楽器店が運営・経営母体になっている楽団である。

どれも機会があれば是非聴いてみたいオーケストラである。



ライブラリアン 中村大志さん
9月退団

ドイツロマン派音楽美学の極致

○交響詩「英雄の生涯」

作品 43

(R)シユトラウス

ヘルベルトフォンカラヤン指揮

ベルリンフィルハーモニー

管弦楽団

レオン・シユビラー

(ヴァイオリン・ソロ)

(85年録音)



少年時代に刻まれた強烈な風景は、人生の節目ふしめにおいて時には色合いをかえ、時には夢と憧れの像を膨らませながらよみがえる。

カラヤン／ベルリン・フィルが1966年に来日した時の驚きと高揚感は今も僕の脳裡をはなれることはない。日本全国11都市をまわつての18公演では、トータルで25の曲目が用意されていたという。今日では考えられない中身の濃さであった。

う、多くの実演、録音が市場を賑わした。

僕もそのうちの札幌公演に函館からかけつけ、限りなく広いダイナミック・レンジのなかで浮かんでは沈みつつの、鍛えに鍛えぬかれた緻密なアンサンブルを堪能した。

と同時にテレビで放映された交響詩「英雄の生涯」の絢爛豪華な音のスペクタクル。官能の樹海から立ち昇り、虹色に揺れ動くひとすじのオーボエの音色に我を忘れた。この時のオーボエの首席はローター・コッホだっただろうか。

オーケストラとは、機微にとんだ人間の心象風景をこれほどまで大胆かつ繊細に表現できるものなのだろうか。それを可能にする作曲能力と演奏技術に恐れ入るだけだった。これも半世紀以上昔の、一人の少年の感傷である。

モーツァルト以降最大の天才、R・シユトラウスが30代で世に送り出したこの交響詩は、退廃の驕りとナルシズムの危うさをほらみつも、オーケストラ・レーシヨンの達人の姿をこれでもかと誇示してやまない。それゆえオーケストラにとっても挑戦の誘惑に勝てないのである

どれだけ多くのディスクをむさぼり聴いただろうか。ルドルフ・ケンペ指揮／シユターツカペレ・ドレスデンの格式、アンドレ・プレヴィン指揮／ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のしなやかで薄化粧を施した色気など捨てがたい演奏が目白押しだが、ストーリー性の濃いこうした音楽では、やはりカラヤン／ベルリン・フィルが抜きん出た力を発揮する。彼らにとつての3度目のスタジオ録音は、弦楽器の旋律の谷間からこぼれ落ちる妖艶さと息づく官能がいつそう精緻になり、完成度の高い音の絵巻を繰り広げているのだ。

禁欲と奔放の間をためらいがちに揺れ動くシユビラーのヴァイオリン・ソロも特筆ものである。楽劇『ばらの騎士』とともに、カラヤン美学の集大成といえるだろう。

半世紀以上前の一人の少年の感傷は、ダメ押しともいえるこのディスクの登場によって、退廃の谷間を逍遙しながらも生の喜びに身を浸す旅の完結を迎えるのである。

アメリカの現代作曲家であるジョン・アダムズの「ハルモニー・レーレ」の練習見学会に参加した。札幌が初めて演奏する楽曲で、指揮は下野竜也である。下野氏はこの楽曲の国内初演者で、ぜひ札幌・キタラでも演奏したいと、定期プログラムに組み込まれた。

「最初のフォルテ3つは暴力的な音で！」と、タクトが振り下ろされると強烈なサウンドが轟いた。既に芸術の森でのリハーサルではほぼ完成しており、全体を通して各声部のバランスやタイミング調整などの仕上げを行った。

第671回札幌定期 練習見学会 下野竜也によるハルモニー・レーレ

「最初のフォルテ3つは暴力的な音で！」と、タクトが振り下ろされると強烈なサウンドが轟いた。既に芸術の森でのリハーサルではほぼ完成しており、全体を通して各声部のバランスやタイミング調整などの仕上げを行った。

見学者は身を乗り出して聴き入り、楽員は真剣に面白がって演奏していたのが印象的であった。武満徹が札幌に惚れたのもわかるような気がした。小さなハプニングではあるが、ヴァイオリンの飯村さんの弦が切れ、張り替えて戻るとこの難曲を途中から迷うことなく、弾きはじめたのである。さすがプロ！

「最初のフォルテ3つは暴力的な音で！」と、タクトが振り下ろされると強烈なサウンドが轟いた。既に芸術の森でのリハーサルではほぼ完成しており、全体を通して各声部のバランスやタイミング調整などの仕上げを行った。

見学者は身を乗り出して聴き入り、楽員は真剣に面白がって演奏していたのが印象的であった。武満徹が札幌に惚れたのもわかるような気がした。小さなハプニングではあるが、ヴァイオリンの飯村さんの弦が切れ、張り替えて戻るとこの難曲を途中から迷うことなく、弾きはじめたのである。さすがプロ！

練習終了後の下野氏によるミニトーク



練習見学会風景

会員／村岡範男

会員／高木誠一

率的な練習により金管パートに

追悼 上田文雄 札幌くらぶ会長



上田文雄会長が9月18日に逝去されました。ここに故人のご冥福をお祈りするとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

弔意を表したいと思います。

札幌くらぶ

事務局長 高木誠一

これからも上田会長の思いを皆様と共に引き継ぎ、札幌の素晴らしさを多くの人に届ける活動を続けて参ります。

通夜の際に送った弔電の全文を載せて改めて上田会長への

は、東本願寺札幌別院にて執り行われました。葬儀会場は廊下まで延べ約千名の参列者と供花で埋め尽くされました。札幌くらぶは弔慰として、供花と弔電を贈りました。

上田会長は札幌と音楽と人をごよなく愛し、「ギター」の定期演奏会をいっぱいにして、札幌の響きで満たされる豊かな街に「を掲げて、1996年に「札幌くらぶ」を発足させました。札幌市長在任中のご多忙時にもその熱意は変わるごことなく、札幌の支援とファンクラブとしての活動、交流会、会報発行などご指導をいただきました。



後任の会長は次年度総会で選任されることとなりますが、それまでは西川吉武副会長が会長代行を務め、武藤義典副会長と村岡範男副会長が補佐いたします。

【弔電】

上田会長「逝去の報に接し、札幌くらぶ会員一同謹んでお悔やみを申し上げますとともに、生前ご指導いただいたお姿を偲び、こころよりご冥福をお祈りいたします。

創立メンバーとして札幌くらぶ発足の労をとっていただいていた以来、札幌市長の職にあるときも札幌くらぶを大切にしていたごとき、会長を二十数年務めていただきました。

会長には日常活動、札幌応援団としての諸行事、会報発行など数えきれないほどのご指導を賜りました。おかげさまでくらぶの歴史も30年近くを重ねると同時に、会報も100号を超えるまでになりました。全国に誇れるくらぶに成長したことを衷心より感謝申し上げます。

私も一同、会長の目指されたくらぶ像を忘れることなく、今後も日ごろの活動に邁進していく所存です。

どうか、見守りいただければと存じます。
札幌くらぶ会員一同

運営スタッフ活動報告

上半期(4月~9月)

- 04月19日(土) 札幌市内青少年 音楽活動団体招待活動 HOGONJニアオーケストラ 37名
- 04月20日(日) 創立メンバーとして札幌くらぶ発足の労をとっていただいていた以来、札幌市長の職にあるときも札幌くらぶを大切にしていたごとき、会長を二十数年務めていただきました。
- 04月21日(月) 茶話会「札幌くらぶカフェ」 15名出席
- 04月26日(土) 第42回札幌くらぶサロン 豊平館 58名参加
- 04月26日(土) 第1部 サロンセミナー 「札幌を10倍楽しむために」 講師 大澤 敬さん
- 04月26日(土) 第2部 サロンコンサート コントラバス 大澤 敬さん
- 05月13日(火) 第3部 交流パーティー ピアノ 大澤博美さん
- 05月19日(月) 札幌市内青少年 音楽活動団体招待活動 HOGONJニアオーケストラ 37名
- 05月19日(月) 運営会議 11名出席
- 05月26日(月) 会報109号発行
- 06月1日(日) 茶話会「札幌くらぶカフェ」 18名
- 06月23日(月) 運営会議 15名出席
- 06月28日(土) 札幌市内青少年 音楽活動団体招待活動 米里中学校吹奏楽部
- 06月29日(日) 茶話会「札幌くらぶカフェ」 18名
- 07月19日(土) 運営会議 18名出席
- 08月18日(月) 運営会議 15名出席
- 08月25日(月) 会報110号発行
- 09月5日(金) 第671回定期演奏会 練習見学会
- 09月7日(日) 札幌くらぶ 4名参加
- 09月15日(月)祝 茶話会「札幌くらぶカフェ」
- 09月20日(土) 運営会議 13名出席
- 09月21日(日) 上田文雄会長 通夜
- 09月21日(日) 上田文雄会長 葬儀
- 09月21日(日) 茶話会「札幌くらぶカフェ」

スタッフの声

▼プロ野球の試合が終わったあとでのヒーローインタビュー。「ファンの皆さんの声援が後押ししてくれた」というコメントが少なくないようだが、これはリップサービスではなく、まさに本音だろう。大病が発見され入院していた日々、家族、友人、知人の励ましのエールに、僕はどれだけ積極的に治療に臨み、病克服のための闘争心をもったのだろうか。札幌へのくらぶの日頃の応援も大きな力になることは間違いないのだ。(村岡)

▼今年の五月から戸籍法が改正されて、キラキラネームが規制されることになった。漢字の本来の読み方とかけ離れた名前が認められにくくなったらしい。戸籍に載るわけではないが、大相撲の四股名はどうなのだろう。九月場所の十両力士「しでん」は「紫雷」と書く。幕下の「ことけんりゅう」は「琴拳龍」と書かれている。雷は放電するし、拳は振り上げるのだからとは思いますが、気になっている。(村山)